

科目名	理学療法概論						
担当講師	佐藤浩哉						
実務経験の概要	医学博士、理学療法士、医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	3	時間数	75	開講時期	通年
授業形態	講義/演習						

授業概要

1. 理学療法の概要について学習します。
2. 理学療法士の社会的役割と必要とされる資質について学習します。
3. 理学療法士としてのキャリアラダーについて学習します。
4. 理学療法士に関わる業務、各種法律・制度、業務管理、職能について学習します。
5. 理学療法士業務に関わる制度や教育・研究について学修します。
6. 社会における理学療法士の組織や職能について学修します。

学修到達目標

1. 理学療法士の概要が説明できる。
2. ICDHとICFを説明できる。
3. ノーマライゼーションとIL運動、QOLの概念・考え方が説明できる。
4. 理学療法（士）に関連する法律を理解できる。
5. 理学療法士に関わる業務および業務管理について説明できる。
6. 理学療法に関わる各種法律・制度、職能について説明できる。
7. 理学療法士に関わる各種制度とその領域における役割を理解し、述べることができる。

授業計画

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 理学療法のイメージ |
| 第2回 | リハビリテーション医学の概念、語源、定義 |
| 第3回 | ノーマライゼーション、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）～1 ☑ |
| 第4回 | ノーマライゼーション、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）～1 ☑ |
| 第5回 | ICDHとICF～1 ☑ |
| 第6回 | ICDHとICF～2 ☑ |
| 第7回 | 理学療法の医学的概念、理学療法の語源☑ |
| 第8回 | 理学療法の歴史 |
| 第9回 | 理学療法と法律－1 |
| 第10回 | 理学療法と法律－2 |
| 第11回 | 振り返り～1 |
| 第12回 | 理学療法の意義と役割と対象 |
| 第13回 | 理学療法の方法1 |
| 第14回 | 理学療法の方法2 |
| 第15回 | 理学療法の方法3 |
| 第16回 | 個人情報保護法 |
| 第17回 | 理学療法士に求められる資質 |
| 第18回 | 理学療法士のキャリアラダー |
| 第19回 | 理学療法士の組織 |

第20回	理学療法士教育
第21回	振り返り ～ 2
第22回	医療・保健分野の理学療法～1
第23回	医療・保健分野の理学療法～2
第24回	地域リハビリテーションと理学療法～1
第25回	地域リハビリテーションと理学療法～2
第26回	医療事故とリスクマネジメント ～ 1
第27回	医療事故とリスクマネジメント ～ 2
第28回	個人情報の管理と対象者の権利 ～ 1
第29回	個人情報の管理と対象者の権利 ～ 2
第30回	振り返り ～ 3
第31回	理学療法士を目指す学生に求められるもの
第32回	臨床教育の実践 ～ 1
第33回	臨床教育の実践 ～ 2
第34回	理学療法士と研究 ～ 1
第35回	理学療法士と研究 ～ 2
第36回	理学療法士と研究 ～ 3
第37回	振り返り ～ 4
第38回	振り返り ～ 5

評価方法

筆記試験

教科書

理学療法概論 第4版（神陵文庫） プリント資料

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法に対する理解を深めてください。

科目名	理学療法評価学Ⅰ						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/実技						

授業概要

理学療法を実践するために必要な理学療法評価の目的・過程・技術を学修します。

学修到達目標

1. 理学療法評価の目的、過程を説明することができる。
2. 理学療法評価に必要な基本的な評価技術を理解し実践できる。

授 業 計 画

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 第1回 | 理学療法評価の基礎①（意義・目的 過程） |
| 第2回 | 理学療法評価の基礎②（対象・構成要素） |
| 第3回 | 理学療法評価の基礎③（統合と解釈 目標設定、プログラム立案） |
| 第4回 | 理学療法評価の基礎④（評価の進め方、記録） |
| 第5回 | 情報収集①（医療面接） |
| 第6回 | 情報収集②（他部門 カルテ情報収集） |
| 第7回 | バイタルサイン① |
| 第8回 | バイタルサイン② |
| 第9回 | 形態測定① |
| 第10回 | 形態測定② |
| 第11回 | 形態測定③ |
| 第12回 | 関節可動域測定① |
| 第13回 | 関節可動域測定② |
| 第14回 | 筋力測定① |
| 第15回 | 筋力測定② |
| 第16回 | 知覚検査① |
| 第17回 | 知覚検査② |
| 第18回 | 反射検査① |
| 第19回 | 反射検査② |
| 第20回 | 筋緊張検査 |
| 第21回 | 姿勢バランス評価① |
| 第22回 | 姿勢バランス評価② |
| 第23回 | 姿勢バランス評価③ |

評価方法

筆記試験（70％） 実技試験（30％）

教科書

リハビリテーション基礎評価学（羊土社）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法評価学を学ぶ上で、解剖学・生理学・運動学の理解と関連が重要ですので、復習を心がけて下さい。

科目名	基礎理学療法学						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/実技						

授業概要

理学療法を实践する上での目的・原理・効果など基礎知識や技術を学修します。

学修到達目標

1. 運動療法の目的・原理・効果など概要を説明できる。
2. 運動療法の基本的技術を理解し、実践できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 運動療法の基礎知識①（目的、定義、歴史） |
| 第2回 | 運動療法の基礎知識②（運動の手段・方法 筋収縮と関節運動） |
| 第3回 | 運動療法の基礎知識③（運動の手段・方法 姿勢と動作） |
| 第4回 | 運動療法の基礎知識④（生体反応と効果） |
| 第5回 | 運動療法の基礎知識⑤（生体反応と効果） |
| 第6回 | 運動療法の基礎知識⑥（原理と進め方） |
| 第7回 | コンディショニングとリラクゼーション |
| 第8回 | 姿勢変化による生体反応 |
| 第9回 | 関節可動域運動① |
| 第10回 | 関節可動域運動② |
| 第11回 | 関節可動域運動③ |
| 第12回 | 筋力増強トレーニング① |
| 第13回 | 筋力増強トレーニング② |
| 第14回 | 筋持久力トレーニング① |
| 第15回 | 筋持久力トレーニング② |
| 第16回 | 呼吸トレーニング |
| 第17回 | バランストレーニング① |
| 第18回 | バランストレーニング② |
| 第19回 | 神経筋再教育 |
| 第20回 | 機能統合トレーニング① |
| 第21回 | 機能統合トレーニング② |
| 第22回 | 機能統合トレーニング③ |
| 第23回 | 機能統合トレーニング④ |

評価方法

筆記試験（100％）

教科書

運動療法学テキスト（南江堂）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

基礎理学療法学を学ぶ上では解剖学・生理学・運動学の知識が重要となるため、復習に心がけましょう。

科目名	生活活動学I						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/実習						

授業概要

1. 対象者の生活を支える日常生活活動の概念、構成について学修します。
2. 日常生活活動の基盤となる基本動作の解除について学修します。
3. 対象者の生活活動における理学療法の役割を学修します。

学修到達目標

1. 生活活動の概念及び日常生活活動の概念、構成を理解し、述べることができる。
2. 基本動作の過程と介助、指導方法を述べるができる。
3. 対象者の生活活動課題を理解し、課題解決するための理学療法の必要性について述べるができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 日常生活活動の概念 |
| 第2回 | 日常生活活動とICF |
| 第3回 | 日常生活活動とQOL |
| 第4回 | 理学療法における日常生活活動の位置づけ |
| 第5回 | ADL評価の概要① |
| 第6回 | ADL評価の概要② |
| 第7回 | ADL評価の概要③ |
| 第8回 | 基本動作について①概要 |
| 第9回 | 基本動作の過程と介助②（寝返り動作・起き上がり動作） |
| 第10回 | 基本動作の過程と介助③（座位） |
| 第11回 | 基本動作の過程と介助④（立ち上がり動作） |
| 第12回 | 基本動作の過程と介助⑤（床上動作） |
| 第13回 | 基本動作の過程と介助⑥（車椅子動作） |
| 第14回 | 基本動作の過程と介助⑦（歩行） |
| 第15回 | 基本動作の過程と介助⑧（移動補装具と歩行） |
| 第16回 | 身の回り動作について ①概要 |
| 第17回 | 身の回り動作について ②食事動作 |
| 第18回 | 身の回り動作について ③トイレ動作 |
| 第19回 | 身の回り動作について ④入浴動作 |
| 第20回 | 身の回り動作について ⑤整容動作 |
| 第21回 | 身の回り動作について ⑥更衣動作 |
| 第22回 | ADLを支援する機器 |
| 第23回 | 住宅環境整備 |

評価方法

筆記試験

教科書

日常生活活動学テキスト(南江堂)・プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

科目名	地域理学療法学Ⅰ						
担当講師	佐藤浩哉						
実務経験の概要	医学博士、理学療法士、医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	通年
授業形態	講義						

授業概要

地域（在宅）で、障害者・高齢者が障害を持ちながら、生活していくためには何が必要で、どう支援していく必要があるのか、そのための基本的な知識を学んでいきます。地域リハビリテーションの概念や生活との関連、理学療法士の役割、関連制度などを学修します。

学修到達目標

1. 地域リハビリテーション、地域理学療法の概念や定義、対象を理解できる
2. 地域包括ケアシステムの概念を理解する。
3. 地域における理学療法士の役割や関連制度を理解する。

授 業 計 画

- 第1回 地域理学療法と地域リハビリテーションの概念
- 第2回 社会情勢の変化と理学療法～1
- 第3回 社会情勢の変化と理学療法～2
- 第4回 技術革新から見た社会情勢の変化
- 第5回 Society 5.0
- 第6回 地域理学療法の視点
- 第7回 地域理学療法と制度 ～ 介護保険制度と障害者総合支援法1
- 第8回 地域理学療法と制度 ～ 介護保険制度と障害者総合支援法2
- 第9回 振り返り ～ 1
- 第10回 地域包括ケアシステム ～ 1
- 第11回 地域包括ケアシステム ～ 2
- 第12回 地域包括ケアシステム ～ 3
- 第13回 対象者のニーズ
- 第14回 地域理学療法の対象 ～ 支援方法
- 第15回 振り返り ～ 2

評価方法

筆記試験

教科書

理学療法テキスト 地域理学療法学（中山書店） プリント資料

参考図書・文献**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

理学療法士の活躍の場は医療現場に留まらず、介護現場にも広がっています。講義内容は、随時変更になる可能性があります。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	臨地実習						
担当講師	佐藤浩哉 菊池賢汰 長野由紀江 及川龍彦 中嶋奈津子 及川真人						
実務経験の概要	佐藤浩哉 : 医学博士, 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 菊池賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 長野由紀江 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 中嶋奈津子 : 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 及川真人 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	実習						

授業概要

介護保険サービス提供施設における対象者の生活に関する調査, 関わる全ての方々とのコミュニケーションや体験を通じ, 理学療法業務への理解を深める。

学修到達目標

1. 前職業人としての礼儀やマナーを理解し, 対象者および指導者・職員とのコミュニケーションを図ることができる。
2. 対象者との交流を通じ, 対象者の日常生活を把握し, その課題や解決する対策を考察することができる。
3. 理学療法士の目指すことを確認することで, 学習において意欲を持って取り組むことができる。

授業計画

実習期間 令和7年度9月24日(水)から9月30日(火) 5日間

実習施設 介護保険領域施設(介護老人保健施設・通所施設)

- 実習内容
1. 対象者および指導者・職員と交流を図る。
 2. 対象者の生活状況について聴き取りを行い, 生活の課題と要因・解決方法を考察し, 調査票にまとめる。
 3. 臨床見学や業務を手伝うことによって, 理学療法士の業務と役割を理解する。
 4. 社会人としての基本的態度を理解し, 実践する。

- 実習後セミナー
1. 経験した実習内容をもとに, 理学療法士の役割, 業務内容, 多職種との違いなどグループワークし理解を深める。
 2. 実習を振り返り, 理学療法士を目指す学生として必要な学修内容をグループワークし学習意欲を高める。
 3. 生活調査票をもとに症例検討を行い, 対象者の生活状況や課題の理解を深める。

評価方法

提出課題(70%) 実習生評価記録(30%)

教科書

特になし

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み, 別に発行される「臨地実習・地域理学療法導入実習のしおり」を熟読したうえで望んでください。